

令和3年度第2回駒来塾運営委員会 議事要旨

《日 時》	令和4年2月8日(火) 午後3時～午後3時30分
《場 所》	小牧市役所 本庁舎3階 301会議室
《議 事》	(1) アンケート結果について (2) 次年度の各会場生徒数と支援員・サポーター状況 (3) 次年度の方針と新規塾生の募集について (4) その他
《出席者》	委 員：舟橋 孝司、佐野 吾朗、山本 幾男、安藤 智人、 山田 好広、光部 明美（6名） 事務局：鍛冶屋こども未来部長、櫻井こども未来部次長、 伊藤こども政策課長、加藤学校教育課主幹、余語福祉総 務課副主幹、若林青少年育成係長、岩井指導員、舟橋指 導員、武田指導員、若林
《傍聴者》	なし
《会議経過》	以下のとおり

1 あいさつ

〔部長〕 こんにちは。本日はご多用にもかかわらず、第2回小牧市学習支援事業駒来塾運営委員会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染拡大が収まらない状況ではありますが、皆様には日ごろから本市の健全育成に格別のご理解をいただき、厚くお礼を申し上げます。駒来塾につきましては塾長をはじめ学習支援員・学習サポーターの方々のご協力により、感染対策を徹底し、予定通り開催をさせていただいております。また、今年度は初めて年度途中での追加募集を行いました。夏休み前からの募集を行い、10月から13名の入塾があり、全体として昨年度より24人多い61人の参加がありました。本日は駒来塾に参加している生徒と保護者の生の声であるアンケート結果について、また、次年度の運営計画ならびに新規募集計画も議題にあげさせていただきました。この運営委員会では円滑に駒来塾の運営を行っていただくため、皆様方から忌憚のないご意見をいただき、子どもたちが駒来塾に来てよかったと思えるような事業を実施してまいりたいと考えておりますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

2 議事

(1) アンケート結果について

資料 1 に基づき事務局より説明

【質疑応答・意見等】

特になし

(2) 次年度の各会場生徒数と支援員・サポーター状況

(3) 次年度の方針と新規塾生の募集について

資料 2・3・4・5・6 に基づき事務局より説明

【質疑応答・意見等】

〔委員〕来年度についても、余裕があれば、追加募集もあるのはうれしく思います。是非、お願いしたいと思っています。というのも、今年度も追加募集で 13 名の参加があったということですが、たとえば、新 1 年生について中学校側でこうした支援が必要な子を把握する機会というと、1 学期がある程度終わって、子どもの様子を見て、それから、相談習慣なり懇談会なりを経て、「ああ、この子はこういう支援・手当てが必要だ」と思うのが、最初の募集の時期から後になりますから、9 月くらいのところでもう一度、追加募集というのがあると学校の間でも紹介ができると思いますので、是非、そういう機会を作っていただければありがたいと思います。

〔委員長〕4 月の継続の方はいつからですか。まだ、決まっていないですか。

〔事務局〕4 月の第 1 週の木曜日からです。

(4) その他

〔事務局〕特になし

〔委員長〕まん延防止関係で、小中学校は、タブレットを持ち帰るようにしているが、それを駒来塾へ持って行き、使っているのか、悪いのかについて、触れているのか、触れていないのか。聞かれたら、イエスかノーかというのは、学校現場ではどうなのでしょう。

〔委員〕指示はしていないですが、恐らく、各校では、持ち歩く、持ち出すことについては控えましょうという指導になっていると思います。あくまで、家庭内で使うということで指導がされているのではないかと思います。

〔事務局〕使えないと思います。現状、持っていつている子たちは、まだいないですね。

〔委員〕味岡は一人います。先週持ってきました。

〔事務局〕個人所有のタブレットかもしれない。わからないですね。

〔委員長〕基本的には持ち出さない方向で進めている、家庭で使うと。この先もわからないですね。今は、まん延防止対策で行っていることだが、この先、いつ持ち帰らせるとか。

〔事務局〕わからないですね。持ち帰りの回数をどんどん増やしていく。原則、毎日、小学校高学年、中学校は全学年という形では進めてはいますが。

〔委員〕理科・数学の先生を増やしてほしいとのことですが、教科ごとの先生の状況はわからないので、結構、中学校の数学は難しいので、どれくらいの方が今、教えているのか、足りているのかということと、子どもや親によって相反する意見があって難しいと思います。一生懸命やっていたとしても難しいと思いますが。

ある人は雑談が多くて嫌だというし、逆に授業以外のことを教えて話してくれてうれしいとか、子どもによってですね、それぞれ考え方が違って、現場は難しいと思います。いろんな学校の子がいて嬉しいという子もいれば、知らない子がいて嫌だとか言う子もいます。ご苦労様ですというのが、感想です。

〔事務局〕教員免許状の理科・数学というところでは、ある程度把握はできますが、支援員の方の勤務地の希望もありますので、すべての教科をすべての塾に配置するというのはなかなか難しいということと、もしできたとしても先生方は大体2回に1回、多いところは月に4回中3回出ただくところもあるのですが、少ないところは月に1回というローテーションのところもありまして、その関係で、必ずその日に理科の専門、数学の専門の先生を配置できるかというのは現実的には難しいところがあります。実際、先生方は不得意なところも一生懸命勉強していただけて教えていただいています。理科・数学ではないのに、英語の先生なのによく知ってみえるということもありますので、専門教科というよりも先生方の指導力というところに非常に頼っている部分もありますので、その中で移ってもいいよ、ここの塾、数学少ないから、理科

が少ないからいいよという声がありましたら、移っていただくことも今後あるのではないかと考えております。

3つ目の件につきましては、以前の検討委員会にもみえて、現場の塾長もやっていただいたある先生が、「生徒指導と一緒に」と。「人を見て法を説け」と。「その子、その子に応じた対応をするのが大事だよ。その子については冗談を言う、その子についてはそういう接し方をしてはいけない。」と、そういう対応をしていただくように、常々、各塾長を中心に、先生方や中には学生さんにも接し方のアドバイスをいただいておりますので、今後とも研修研鑽を積んでいきたいと考えております。ご意見ありがとうございます。

[委員] 駒来塾という活動自体、全国的に見てもなかなかない事例だと思いますので、もっともっといろんな方に知っていただいて、いろんな方に参加していただきたいと思います。西部地区とか南部地区とか、追加募集ももちろんいいのですが、そういった場所も広げて、もっと多くの方に参加していただけると嬉しいと思います。もちろん、先生の講師とかサポーターとかの募集とか、お金のこととか、当然、場所のこととか、色々大変なことはあると思うのですが。是非、いい活動だと思いますので広げていただいてより多くの方に参加していただけたらいいなという感想です。

あと、子どもたちの意見、参加していない子たちとかにも駒来塾のことをどうやって思っているのか聞いてみたいなと漠然と思っていました。子どもたちというのは、大人たちが支援のためにすごく行っていることがどこまで伝わっているのかというのが素朴な疑問ですが。子どもたちの意見も生かしていけるようなことができたらいいなとちょっと漠然と思っていました。

[委員] アンケートの中で「女子大生サポーターの教え方がわかりやすく喜んでいきます。」というのがありました。生徒によっては、やはり、女性の支援員、男性の支援員によってちょっと対応の仕方が変わる子もおりますので、女性の支援員とかサポーターがたくさんいるといいかとも思いました。先日、私も駒来塾に参加していたのですが、体調が悪くなった女子生徒がおりまして、そういった子をトイレに案内するとか手当をするとかそういうことには、やはり、去年も私、申し上げたと思うのですが、女性の方が対応された方がいいのではないかと思いました。

[委員] 開塾当時ですが、やっぱりこういう塾ですと、生活が苦しくて片親でという子が来るわけですが、そういう風評被害が心配でしたが、そういう目で見える子は少なく、来ている子も元気に来ていますので、ちょっと杞憂だ

ったと安心しています。塾の主旨に合った生徒ですが、最初はあまりいなくて、ここ最近2，3年で主旨に合った子たちが来ていますので、ようやく軌道に乗ってきたと思って安心しております。

〔委員長〕みなさんからご意見をいただきました。本日はここまでにさせていただきます。議事は以上ということで、進行を事務局にお返しします。

3 その他

年2回程度の開催を予定。

次回委員会は、今年度と同様に6月頃の開催を予定。日程、議事内容等詳細については、決まり次第連絡。